

平成 18 年度

東北大学大学院法学研究科博士課程前期 2 年の課程 (4 月入学)

一般選抜 A 方式入学試験

第 1 次選考 専門科目試験

(科目名) 法理学

問 1

アメリカの哲学者 John Rawls は、自らの正義に関する構想を、次のような正義の二原理として定式化している。

第一原理：「各人は、平等な基本的諸自由からなる十分適切な枠組への同一の侵すことのできない請求権をもっており、しかも、その枠組は、諸自由からなる全員にとって同一の体系と両立するものである。」

第二原理：「社会的・経済的不平等は、次の二つの条件を充たさなければならない。第一に、社会的・経済的不平等が、機会の公正な平等という条件の下で全員に開かれた職務と地位に伴うものであるということ。第二に、社会的・経済的不平等が、社会のなかで最も不利な状況にある構成員にとって最大の利益になるということ (格差原理)。」

(所収：ジョン・ロールズ『公正としての正義 再説』田中成明ほか訳、岩波書店、2004 年、75 頁)

このロールズによる正義の二原理につき、その内容を簡単に説明した上で、それが近代立憲主義にとってどのような意義を有するのか、論じなさい。

2006 年度〔平成 18 年度〕 法学研究科博士課程前期二年の課程
A 方式入学試験問題

科目名： 法理学

問 2

新カント学派の法哲学について論述せよ。

以上